



七つ星

9月号

輝く笑顔 誇れる学校 ～さいたま市立七里中学校 学校だより～

令和8年9月1日（火）
〒337-0012 さいたま市
見沼区東宮下1-1-1
電話 048-685-0603

当たり前の日常に感謝 ～ すべきことに全力を注ぐ ～

校長 河合 裕

残暑が厳しい中にも、朝夕には少しずつ秋の気配も感じる季節となりました。早いもので2学期も始業式から一週間が経とうとしています。お陰様で本校では、これまでと変わらぬ教育活動を行うことができています。このことについて感謝の念に堪えません。

この夏、7月の令和8年熊本地震、8月の千葉県集中豪雨、市内においても集中豪雨や地震、と自然の力の脅威を改めて感じる災害が複数発生しました。尊い命を失われた方々に謹んで哀悼の意を表します。また被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

始業式の日、私は生徒の皆さんに「自然の力に対して人の力には限界がある。一度、自然災害が発生すると、人の力では太刀打ちできない状態になる。だからこそ、避けられる自然災害は避けたい。気候変動が一因として考えられる異常気象（集中豪雨や酷暑等）は人が自然を大切にすることで少しでも抑制できるかもしれない。一人ひとりが自然を大切にしていこう。また、それと同じくらい当たり前の日常も大切にしよう。被災された方々はこれまでの日常生活が送れず、新学期もいつもどおりに迎えることができない学校がある。幸いにし七里中は、こうして新学期を迎えることができた。私も皆さんに会えてとても嬉しい。この当たり前に感謝しよう。そして未来を明るく変えられるのは今。だから、今すべきことに全力を注ごう。何をすべきか、どうするべきか。学期の始まりはこのようなことを考えるのうってつけの日である。この問いと真剣に向き合ってほしい。」と話をしました。

生徒の皆さんにとっては、夏休み明けのこの一週間は、暑さは収まらず、時間には束縛され、授業も始まり、心と体を慣らす（戻す）のに大変だったことでしょう。そして大層疲れたことでしょう。しかし、その大変さと疲労は当たり前の日常がもたらしてくれたのです。大変だけど…疲れるけど…取り組んできたことは、未来を明るく変える取組なのです。何かを大きく変えることは大変なことです。大変なことに取り組めば疲れます。それでも七里中生の皆さんには、それができる当たり前の日常を、失ってから気がつくのではなく後悔する前に有難みを感じて、すべきことに全力を注ぎ、自己実現に向けた自己変容を遂げてほしいと期待しています。私も、生徒の皆さんの成長の歩みを支援できることに喜びを感じ「時代・施策（法令）・実態に即した、意識・思考・行動の改革」を旗印にして、学校経営に全力を注いでいきます。共に頑張っていきましょう。保護者・地域の皆様におかれましても今学期も引き続き、子どもたちの健全育成・明るい未来の形成のために、お力添えをいただけますようお願いいたします。



始業式の登校風景